

月刊ウィーン

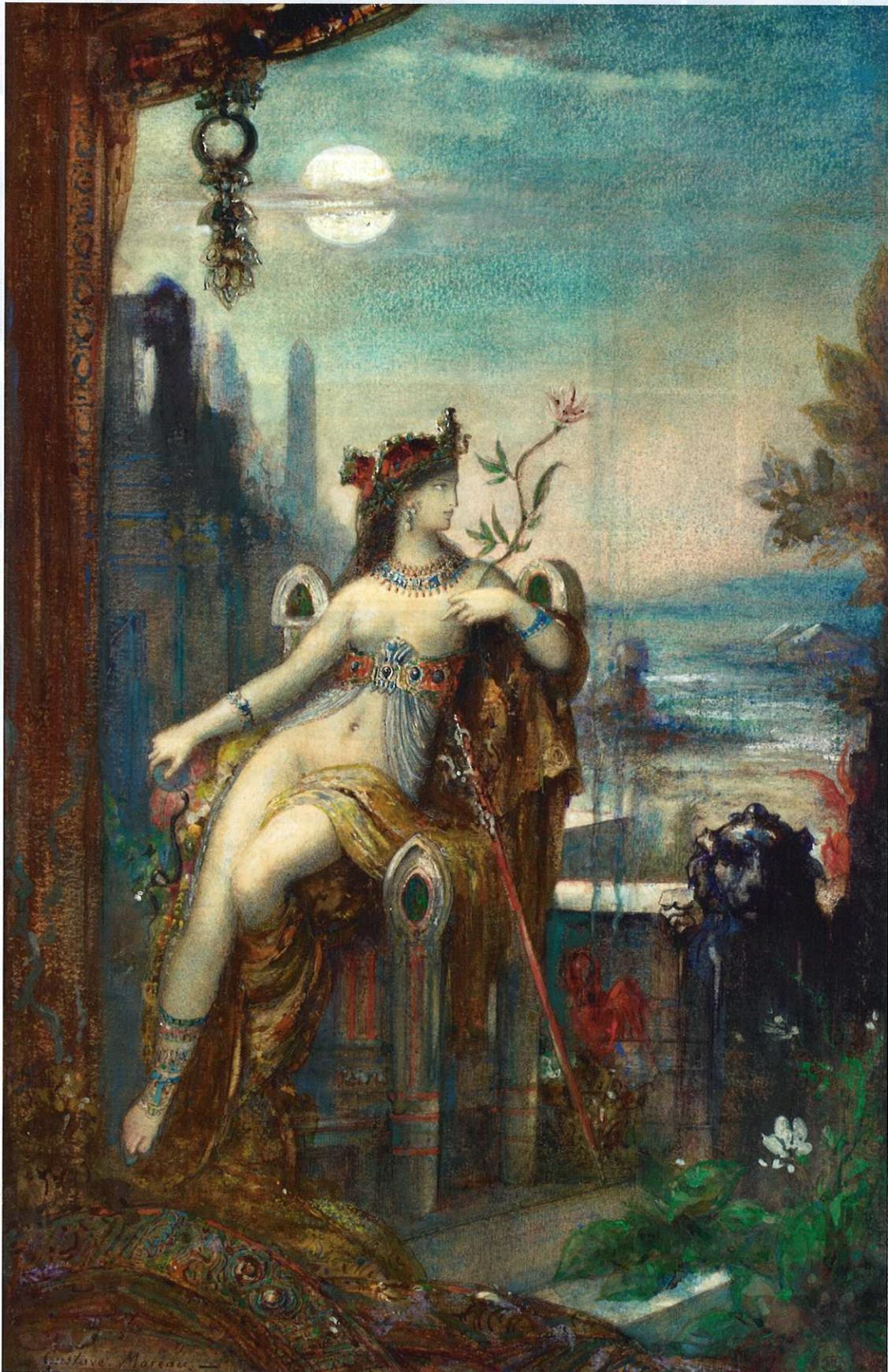
現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊平成元年 創刊27年目
創刊1989年 Nr.309

GEKKAN-WIEN 2015年3月号

Gustave Moreau Kleopatra, 1883

© Musée d'Orsay, Paris, Dist. RMN-Grand Palais, Troy Querec

„Degas, Cezanne, Seurat. Das Archiv der Träume aus dem Musée d'Orsay.“ Albertina



アルベルティナ美術館 特別展「オルセー美術館から 夢のアーカイヴ ドガ、セザンヌ、スーラ」より
ギユスターヴ・モロー（二八二六年四月六日パリ生〜二八九八年四月二八日パリ没）
『クレオパトラ』一八八三年



杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 42



昨年九月十四日から十二月十四日にかけて、文部科学省の事業の一環として、我が国の原子力関係大学院・学部を有する十六大学より構成される大学連合ネットワークに所属する学生が、ウィーンに本部のあるIAEA（国際原子力機関）にインターシップとして派遣された。この派遣は、優れた国際感覚、高いコミュニケーション能力や情報発信能力を有するグローバルな原子力人材の育成を目的としたものである。十六大学から選抜されたのは、京都大学の本間雅之君、東京工業大学の坂井悠介君、名古屋大学の弘津嵩大君の三名の修士一年生である。本間君はIAEAの原子力科学応用局物理課に



配属されカメンジエ氏の指導を受けた。坂井君と弘津君とともに原子力局原子力発電技術開発課に配属されスプキ氏の指導を受けた。三名とも国際機関という多文化環境下で貴重な経験を積み、公私にわたり充実した三ヶ月間を過ごした。

京大の核融合プラズマ物理工学研究室に所属する本間君は、インターシップ期間中の十月中旬にIAEA主催の核融合エネルギー会議がサンクトペテルブルクで開催されたため、五五〇件に及ぶ投稿論文

のレイアウトのチェックなどの支援。世界各国のプラズマ・核融合分野の大学・研究機関に関するデータベースの設計、国際会議の案内状の作成などに従事することとなった。一月に開催した同君の帰国報告会ではオンライン投稿審査システムの不備のため、世界中から問合せのメールが殺到して、その善後策に苦勞した話などもあったが「自分の思う日本人らしい方法で国際機関へ少しでも貢献できた」との感想があった。カメンジエ氏のインターン完了報告書にも「チームの不可欠な一員」とあり、職員に準じる働きをしたことが分かり、当方も誇らしい気持ちになった。天野事務局長とインターンとの交流の場では、同

事務局長と直接話す貴重な機会を得たとのこと。報告会ではウィーンの人との交流や日々の生活、小旅行などの楽しい話題も紹介され、質問にも終始笑顔で答えていた。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、カードゲーム製造メーカーについて述べたい。ウィーンには世界的に有名なトランプ製造メーカー、ピアトニック社がある。同社は二八二四年の創業なので、二百年近くもの歴史と伝統がある。色彩印刷がキレイで種類も豊富であり、日本風の絵柄もあって人気がある。

年間二千五百万個のトランプの他、百万個のゲーム盤、百万個のジグソーパズルも販売している。同社の子会社は独、ハンガリー、チェコ、米にあるが、我が国を含む他国々にもネットワークを介して販売している。「ゲームが私たちに喜びとリラックスをもたらしてくれませうように」というのが同社の哲学という。

一方、京都駅近くには、ゲーム機製造等で有名な任天堂日本社がある。創業は二八八九年、花札の製造を開始した。旧日本社は風情がある建物で玄閑協に「トランプ・かるた製造元」の表示がある。一九〇二年に日本で初めて任天堂がトランプを製造し、一九七七年に家庭用テレビゲーム機一九八五年にはスーパーファミコンを発売するなど、世界的なヒット商品を作り続けている。同社は米、独、加、仏、蘭、スペイン、オーストラリア、韓国に海外拠点を持つ。経営方針は「世界のユーザーへ、かつて経験したことのない楽しさ、面白さを持った娯楽を提供する」とあり、ピアトニック社の哲学と似ているのが興味深い。

余談であるが、筆者はウィーン赴任中、ピアトニック社の存在は知らなかったのだが、カフェでトランプをしているのを見たことがある。今にして思えば同社のトランプと断言できる。京都での学生時代に友人と遊んだ花札は確かにな。天竺製だった。



両市が世界に誇るカードに接することができた幸運に感謝しつつ、ピアトニック社のトランプの写真を掲載させていただく。

■杉本純 京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長